



自破毀... 上... 軒... 下... 任... 國... 公... 使... 夫... 人... 途... 上... 危難之遭也又同館雇之清人某宅之暴民侵入來り曰爾後

大隈総平左衛門殿
必親張

途天壇
遭遇
石ヲ放擲
ハニ座ノ居
安ク緘訊
ノ聲ト轆

北京ニ於ケル清人暴行ノ之對シテ
海軍公用文館

西... 報告
冬三局



114
A 372



114
A 372

極秘

喋報第百拾號

明治三十年十月六日 在清國 瀧川海軍中佐報告

海軍軍令部第三局



北京ニ於ケル清人ノ暴行英ニ之ニ對スル外交界ノ情況

去ル九月三日日本邦人田山了介平山周ノ二人天津ヨリ歸途天壇ノ北端ニ天橋附近ニ於テ一群約二千許ノ清人ノ為メ暴行ニ遭遇シ田山了介ハ鼻頭及石臂ニ輕傷ヲ負ヒ平山周ハ右脚ニ大石ヲ放擲セラシ稍々歩行ニ困難スルニ至リテ馬車ヲ本人等ニ於テ馬車内ニ座居ルヲ以テ事ヲ創メシモ非ズ又夕抵抗ヲ試ミタルモ非サリ又夕英ノ緝訊官及ヒ米ノ婦人等モ同處ニ於テ均ク人民ノ擲石ニ遭ヒ衣服ヲ害ヒ轎車ヲ破毀セラシ上負傷スルニ至リ越シ本月一日伊國公使ノ夫人途上危難ニ遭ヒ又々同籍産ニ清人某ノ宅ニ暴民侵入シ來リ曰ク爾後

大敵留取外敵
為防範

海軍公報文書

外國人及之使役せらる、清人、皆攬殺スベト叫ビ暴行及之其家財
及家屋ヲモ破毀ス至リ高佛、技師及匯文書院ノ教師等モ
齊シク暴行ニ遭遇セリト抑モ此ノ暴行ハ一種ノ外人排斥主義ヨリ
出テモニテ其根源、康有為一派ノ改革ニ起因シ(即チ頭髪ヲ切り其
洋服ヲ着ス)其
處刑ニヨリテ益々信仰ヲ高シ恩シク外人ノ必ズ彼ニ左袒シ之ヲ教唆シ
タルニ因ラレトシテ遂ニ想ヨリ北京内外城ヲ通シテ外人排斥ノ熱度ヲ高メ
タルヲ殊ニ去ルニ三日ハ恰モ陰曆中秋ノ季節ニシテ官商一般ヲ通シ
テ休業スルノ日ナレバ街上ノ群集雜者モ他日ニ超ヘ之カ為メ被禁モ自集
合カニヨリテ勢ヲ得遂ニ暴徒ヲ逞フニシテ思ハレ事安、此ノ如クハ上
ニ他方面ニ之ト同様ノ暴徒アリタレバ若シ此儘ニシテ差置カ其
趨勢甚麼ニ程度ニ達スベキヤモ斗リ知レカニ故ニ我公使ニ總署ニ
嚴詰スルニ直ニ犯人ヲ逮捕シテ嚴罰ニ處シ又警戒ヲ嚴シ保セテ其
暴行ニ對シ謝意ヲ表スベト申込リ但シ損害要償、本人等ヨリ請

求ナキヲ以テ之ヲ為サズト又彼ニ注意スルニ貴國速カニ之カ處分ヲ嚴
格ニテノ員傷者ヲ慰問スベシ吾ラサレ或ハ不測ノ難尙ヲ致シテ貴
國ニ迫ルヤモ知レハカラズト依テ彼ニ我公使ノ注意ヲ謝シ保セテ彼我
中裁ノ勞ヲ取ラシテ請ヒ又各公使館ニ官吏ヲ派シテ謝辞ヲ致シタリ
英公使、此事件ニ對シ直ニ總署ニ照會スルニ貴國帝都ニ於テスル此
ノ暴行ヲ鎮定スル能ハズ故ニ將來ノ事素ヨリ斗リ難シ我使館護衛
ノ為メ兵員ヲ入京セシムベト亦月二日海兵水兵ヲ派シテ上京セシム此水
兵等天津ニ到リシニ署理北洋大臣袁世凱、海關道ヲ以テ英領事
ニ交渉セシメ暫ラテ兵員ヲ入京ヲ待タシメテ以テス露モ亦之ト同
時ニ旅順ヨリ騎兵五十騎ヲ呼寄セ使館ノ保護トシテ入京セシメント
シ独逸、膠州ヨリ軍艦及兵員ヲ呼寄セ入京セシメントス又夕伊佛
米等ハ各々其各軍艦ヲ廻航シ請求シ伊佛ハ軍艦到着ヲ待テ
兵員ヲ入京セシムナラント思ハレ亦月四日夜各國公使ノ會合アリ其

懐議ハ兵買ヲ入京セシムル可否如何ニアリタルモ右公使ハ兵買入京ニ孰モ
 同意ヲ表シ更ニ異論ナクシテ云フ故英露ノ兵ミテ彼令一時北洋大
 臣ノ拒議アリモ必ス入京ヲ止マセシメ聞テ度々據ル英露トモ約九十名宛
 ノ兵ヲ入京セシムルナラシムト思ハシ又々獨伊佛等モ各々其軍艦到着ノ
 時キ時様ニヨツテハ之ニ相當スルノ兵買ヲ入京セシムルナラシ
 蓋シ各國公使
 ノ意ハ軍ニ公使館保護ヲ爲メ非スレテ過般來清國ノ政事又ニヨツテ排外
 ノ思想再ニ勃興シ政府ノ方針再ニ曖昧垂風ニ陥ルト暴民ノ暴擧
 トシ威壓シ權力ヲ保持セシガ爲メ此ノ擧ニ出ラタムモノト思ハシ
 目下当城内人心不穩ノ徴アリテ外國人トアル皆十睥睨ヲナシ或ハ何時暴
 發セシモ知ルベカラズ統署者章京張元清ハ或ハ日本人ニ勸告スルニ暫ラシ
 公使館ニ避ケ時様ヲ見ルベシト注意ヲ喚ハシ殊ニ各國兵ヲ入ルニ於テハ
 益々無知人民ノ激昂ヲ増スナラシカ